

第4回山ノ内町立適正規模適正配置等審議会 議事要旨

(開催日時・場所・出席者)

日時 令和6年9月11日(水) 午後5時00分～6時50分

場所 山ノ内町役場 401会議室

出席者 (委員)

・出席委員 19名

会長 原 隆文 (元小学校長)
副会長 佐藤 重子 (主任児童委員)
宮澤 昭雄 (東小学校PTA会長)
中島 学 (西小学校PTA会長)
小泉 一真 (ほなみ保育園保護者会長) ※代理出席
杉戸 香奈 (よませ保育園保護者会長)
丸山 恵美子 (すがかわ保育園保護者会長)
畔上 三行 (区長会会長・宇木区長)
芦原 喜久司 (区長会副会長・上条区長)
内田 健一 (区長会副会長・穂波温泉区長)
下田 清人 (区長会副会長・須賀川区長)
中村 まゆみ (南小学校長)
山口 近 (山ノ内中学校長)
鈴木 隆夫 (町子ども会育成連絡協議会長)
高田 佳久 (町議会議員 社会文教常任委員長)
西澤 誠一 (公募委員)
佐藤 匡則 (公募委員)
田中 晴男 (公募委員)
湯本 市蔵 (公募委員)

(事務局)

山ノ内町教育長 竹内 延彦

山ノ内町教育委員会事務局 教育次長兼こども未来課長 望月 弘樹

山ノ内町教育委員会事務局 こども未来課 学校統合準備係長 山本 敏幸

山ノ内町教育委員会事務局 こども未来課 学校統合準備係 畔上 俊樹

欠席者 (委員)

高相 慎吾 (南小学校PTA会長)
高相 大作 (志賀高原保育園保護者会長)
宮崎 未希 (かえで保育園保護者会長)
湯本 文洋 (東小学校長)
竹内 由紀 (西小学校長)

傍聴者 11名 報道関係 2社

1. 開会 (望月教育次長)

2. 会長あいさつ (原会長)

- ・教育委員会主催で小学校及び保育園の8か所で保護者懇談会が行われた。私を含め数名の審議委員も懇談会に参加し保護者の意見を聞いてきた。懇談会の結果報告があるので審議に行かしてほしい。
- ・本日の会議では適正配置の内容で密接に関わる小中一貫校について事務局より説明し、現状の学校体制との違いや今後の町の教育に必要とするべき内容などについて委員より意見をいただきたい。

3. 報告事項 (説明 学校統合準備係 山本係長)

(1) 小学校及び保育園における保護者懇談会の開催結果について

<配布資料1> 小学校統合に係る保護者との懇談会開催結果

- ・8月27日～9月9日の間で小学校3か所、保育園5か所で保護者懇談会を実施し119名の参加があった。
- ・懇談会では、保護者から主に統合の時期や場所、段階的な統合案の賛否、小中一貫校に関すること、子どもたちに望む教育などを中心に意見を聴取した。
- ・小学校統合については、西小へ統合という話が出た経過や統合の必要性があるのかといった意見もあったが、急いで統合するより教育の中身をじっくり検討したうえで統合を進めてほしいという意見が多数あった。
- ・段階的統合については、子どもや保護者の負担が大きいという理由で多くの会場で反対意見があり、最終的に1校統合するのであれば、段階的ではなく1回で3校を1校統合にした方が良くという声があった。
- ・小中一貫校については、小中一貫校にするメリット、デメリットを教えてほしい、もう少し時間をかけて検討をした方がいいという意見があった。
- ・統合場所については、中学校敷地での統合が良いという意見が多かった。
- ・通学については、志賀高原の児童の通学に関する意見が多かった。また、統合した場合のスクールバスでの通学を心配する意見もあった。
- ・教育の内容について、教育環境が向上するようなビジョンを示してもらわないと統合への判断は難しいという意見や自然を生かした教育に力を入れてほしい、英語や算数の専科の先生を増やした教育をしてほしいという意見もあった。
- ・その他の意見では、町長のまちづくりのビジョンについての質問が多かった。また、統合に関する情報があまり伝わってこないので周知について工夫してほしい、今後も懇談会を開いて意見を言う機会を作してほしいといった意見があった。
- ・全体を通して小学校統合は時間をかけてしっかり検討して3校を1度に統合という意見が多数を占めていたと感じた。

(望月次長)

- ・今回の保護者懇談会に参加された委員の中で、保護者の意見を聞いて補足等があれば発言をお願いしたい。

(委員)

- ・約半数の懇談会の様子を傍聴した。保護者からの意見の内容は先ほど事務局の説明のとおりであった。
- ・保護者の意見にあったが、懇談会の開催の日程調整が急だったことや資料を事前に配布した方がよかったのではと感じた。統合に関する情報が新聞等で知る程度であり、少ない情報で理解していない中、当日説明されてもすぐに意見が出てこないと思うので、今後同様の懇談会を開催するのであれば配慮してほしいと思う。

4. 会議事項 (議長 原会長)

- ・山ノ内町立小学校適正規模適正配置等審議会条例第6条により、原隆文会長が議長となる。

(1) 小中一貫校について<配布資料2>

(説明 学校統合準備係 山本係長)

- ・小中一貫校が必要とされる背景について、進学時の接続をスムーズにする、児童生徒の身体的発達が早まっている、中一ギャップを埋めるなどの理由がある。
- ・小中一貫校は小学校の6年間と中学校の3年間を合わせた9年間を一貫した教育課程を編成した学校となる。その中で義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校に分けられる。義務教育学校は小学校と中学校を合わせた一つの学校となり、一人の校長先生で一つの教職員組織になる。小中一貫型小学校・中学校については、小学校と中学校が一貫した教育を行うがそれぞれに組織が独立しており、それぞれの学校に校長先生や教職員組織がある。
- ・小中一貫のメリットについては、進学時の環境変化が少ない、異学年交流による精神的な発達、学習や生活面のフォローが受けられる、充実した設備備品が使える、独自教科等の特色ある教育が可能などといったものがある。
- ・デメリットは対人関係の変化が少ない、小学校高学年(5, 6年生)がリーダーシップを発揮しにくいといったものがあげられる。

(2) 質疑・意見交換等

(原会長)

- ・小中一貫校について、当審議会では答申を求められている事項であるため、山ノ内町で小中一貫校の是非や小中一貫教育に関する質問や意見を発言していただきたい。

(委員)

- ・資料にある小中一貫のメリット、デメリットについて、義務教育学校と小中一貫型小中学校を一緒にして整理されているが、義務教育学校のメリットと小中一貫型小中学校のメリットは異なってくるため、分けて整理した方がより分かりやすく良いと思う。その方が小中一貫を検討していく中で、義務教育学校が良いのか小中一貫型が良いのかの選択を考えると材料になる。

(委員)

- ・デメリットについて、対人関係は現在もクラス替えがない中でデメリットになるとは思えない。リーダーシップも教育のやり方によってはメリットになるのではないかと思う。

⇒ (事務局)

- ・対人関係の変化が少ないというデメリットは、小学校と中学校が1校ずつしかないところでは小中一貫と関係なく起こりえると思う。リーダーシップが発揮できないということに関しては、私立や進学校の小中一貫校で9年間を通じて学習していく環境では発揮しにくいと思われるが、異学年交流や教育のやり方次第ではデメリットではなくなると考えている。

(委員)

- ・小中一貫校にすることで教員同士の連携が取れやすいとあるが、現在、小学校と中学校の教員同士の連携はどのくらい取れているのか。また、併設型と分離型での連携のしやすさなどの違いが分かれば教えてほしい。

⇒ (山口校長)

- ・E S D教育を中心に行っており成果を上げていると思う。その中で小学校6年間やってきたことを情報収集して中学のE S D教育につなげている。そのほかにも色々な面で小学校と連携を行っている。
- ・学校は離れていてもそれなりに連携は取れるが、同じ敷地の中で校舎がつながっていることのメリットは大きいと考えている。私の思いの中で、未来の子どもたちがどのように育ってほしいかと考えると、中学生と小学生が一緒に関わり合いながら学びあう環境が大事だと思う。それをE S D教育の中で取り入れていくとさらに良いと思うし、子どもたちにとっていい影響になる。小中一貫のデメリットは一般的な小中一貫校の事例と考えてもらえばいい。対人関係の変化が少ないは先ほどの話の通りどこの学校でもある話である。リーダーシップが発揮しにくいというケースは義務教育学校を想定しているものと思うが、義務教育学校である信濃小中学校の校長先生の話を知るところ、6年生がリーダーになるような行事を行うなどの工夫として対応しているとのことで、デメリットにならないと考える。

⇒ (中村校長)

- ・小学校間の連携は、E S D教育を通じ3小学校で交流して成果発表等を行っている。また、各学年の行事で一緒に交流も行っている。中学校との連携については、E S Dや文化祭などの行事に参加している。小学校から中学校を通して、町を挙げてのE S D教育は成果が出ており、他の市町村ではあまりない事例だと思う。
- ・小学校の英語教育については、令和6年度から各校にA L Tが配置され、英語専科の教員も全体で1人いる体制になり、全体会議で学校の英語教育の進み具合や足並みをそろえる調整、教材研究する打ち合わせをするなど連携が取れている。
- ・小学校と中学校が同じ敷地で併設していると、先に話したことがさらに強化して取り組むこともできるし、新たな連携した教育が取り組むことができると思う。また、異学年交流についての話にもあったように、隣どうしであるから容易にできることだと感じる。校舎が離れていれば移動時間がどうしてもかかってしまうので、併設型の方がメリットになる。

(委員)

- ・小学校と中学校の連携はできており、小中一貫で9年間やっていく土台はあると感じた。

- ・統合しなくても十分できていることもあるが、統合して小中学校を同じ敷地にすることでさらに良い教育環境になるという話だと受け止めたので、そこを考慮して小中一貫について検討して必要があると感じた。

(委員)

- ・小中一貫校にするのは、中学校敷地に小学校を統合するための目的にしか思えない。グラウンド等の施設の共有では課題も多く、今広々と使っている中学校敷地へ統合する必要はない。私の考えは今よりさらに子どもたちが少なくなり、小学校と中学校を統合しても規模の小さい学校が小中一貫にするというイメージである。山ノ内町はまだ小中一貫校にする必要はないと考える。個人的には3校を1校統合ではなく、2校体制で場所も南小と西小を使う方がよいと考えている。

(委員)

- ・小中一貫の中身についてよくわからないことも多く、前回の審議会では小中一貫校は反対であったが、いい学校を作ってもらいたいという思いがあるので、魅力ある素晴らしい学校ができるのであれば小中一貫校を進めてもよいと思う。

県内でも小中一貫教育を取り入れている学校は多くないと思うが、なぜ山ノ内町で小中一貫を取り入れていくのかという理由を明確にした方がよいと思う。中身を考えるのは教育委員会だと思うが、審議会の答申で小中一貫の検討に関する内容を明記する必要があるのではないかと。併せて魅力ある学校にするため、小中一貫校で何をどのようにしていきたいのかという考えを明確にして多くの人に示してほしい。

人を惹きつけて魅力がありワクワクする学校にすることで、移住してくる人もいると思う。そのような学校づくりを目指してほしい。

(委員)

- ・子どもたちが中学校を卒業して町外へ出て言ったときに、桜がきれいな学校だったとか、自然豊かな山に囲まれた環境で田んぼや野菜作りをしたという良い思い出が残るような小学校にしてもらいたい。

(委員)

- ・小中一貫校にしていきたいというのは理解できるが、まだ山ノ内町で導入するのは早いと感じている。小中一貫にすることで小学生らしさがなくなってしまうのではないかとと思うので、小学校の6年間を大事に考えるような学校にしてほしい。

(委員)

- ・小中一貫校といえば、大学の付属学校や私立の小中一貫校等のイメージを持つてしまうが、そのような学校との関連性を教えてほしい。

⇒ (教育長)

- ・小中一貫というと大学進学等を目指すための進学校をイメージする人も多いと思うが、山ノ内町の小中一貫教育の価値をどう作るかによって、世間一般の小中一貫と差別化を図っていく必要があると考えている。高校に進学する準備段階としての中学校、中学校に進学する準備段階としての小学校というような上から下に合わせるような小中一貫教育ではなく、下から上に上がっていくための教育として、幼児期に豊かに過ごしたものを小学校へどのように繋げていくか、小学校で6年間学んできたこと

を中学校へどのようにつなげていくかということ、子どもの成長に合わせて積み上げるような教育を大事にしていきたい。子どもは日々成長している中で、小学生から中学生になって環境が急に変わるのではなく、切れ目なく成長できるような連続した教育が大事であるという考えで小中一貫と捉えてもらえればと思う。

- ・小中一貫で学校が1つになったとしても、地域とのつながりは大事にしていきたいと考えており、子どもたちが自分の地域の中で育つことが重要だと感じている。
- ・私個人の考えになるが、幼児期を含め10数年間を一貫して大事にしたい教育について、E S D教育、英語教育、スポーツ、人権教育の4つを柱に、子どもたちが社会に自信を持って育っていくための学校づくりに力を入れていきたい。既に取り組みされている内容のものかもしれないが、一貫教育にすることでさらに充実した教育ができると考えている。

(委員)

- ・小中一貫校は、義務教育学校と小中一貫型小中学校の2パターンがあると思うが、私個人としては小中一貫型小中学校の方が良いと感じる。自分が中学1年生の時に3年生の先輩はとても怖かったイメージがある。義務教育学校のように学校が1つの中に小学生と中学生が一緒いると、小学生にとって中学生が怖いと思ってしまうのではないかと。小学生の時、1年生と6年生がため口で会話することはあるが、中学生になると先輩に対して敬語で話すようになり急に言葉遣いが変わる。小学6年生の元気な子が中学生に目をつけられていじめられる可能性もあるため、小中一貫型小中学校の同じ敷地内の分離型学校が良いと思う。

(委員)

- ・先ほど教育長が言っていた山ノ内町の教育の魅力や価値について考えた時、私もE S D教育、英語教育、スポーツは大事だと感じた。世界中から多くのお客が訪れる町でグローバルな視点で子どもたちが学べる自然豊かなフィールドがあるので、引き続き取り組んでもらいながら外にPRをしていけば、魅力ある教育になり、人が集まってくると思う。子育てをしている親として、環境が変わり子どもが学校に行けなくなることにならないように、私たちの努力や地域の方の温かいサポートも必要と思うが、子どもを育てる環境が大事だと考える。

(委員)

- ・小中連携の教育は現状既に行われていると校長先生から話があったが、教育基本計画にその部分が記載されているのか。また、教育基本計画を委員へ資料として配布した方が良いのではないかと。現在の教育方針はどのような内容になっているかを知ってもらってから次の議論を深めた方が良いと思う。

⇒ (事務局)

- ・教育基本計画の中では、小中連携を強調した表現は出ていないが、現状E S D教育や小澤コンサートも小中一緒に取り組んでいるので、しっかりと保護者や町民の方に伝えるよう発信していきたい。

⇒（山口校長）

- ・第2次教育基本計画に少し携わったが、小中連携の内容は明記されているはずであるので確認してほしい。小学校適正規模及び適正配置に係る基本方針のV（2）に小中連携を推進することが明記されている。

（委員）

- ・私は小中一貫の義務教育学校が理想とする教育に近いと思う。E S D教育がすごく力を発揮していると感じており、子どもの同級生たちと触れ合ってみるとすごく立派な姿に驚いた。中学3年生の時に町づくり討論会で、中学生が町について真剣に考えたことを町の関係者へ提案している姿がすごいことだと思う。このような取り組みをさらに推し進めるために9年間の一貫した教育が重要だと思う。

教育長が先ほど言った人権教育についてもとても大事だと感じた。町内にいると当たり前のことをやっていると感じていたが、他ではそこまで取り組まれていないということを知った。英語やスポーツといった教育も大事であるが、できる子はできない子に対して見下すことがある。競争心も大事であるが、そこからいじめや差別的なことが起こってしまうので、人を敬う心の教育をしっかりと取り組んでいくことが重要だと思う。

また、中一ギャップで不登校になったりもするので、義務教育学校で一貫した教育をすることで、中一ギャップの解消も期待できると思う。

（委員）

- ・山ノ内町で小中一貫校ということにこだわるのであれば、中学校敷地へ統合となると思うが、狭い敷地にプールを壊してまで小学校を建築した学校に理想となる小中一貫教育ができるとは思えない。中学校の条件が悪くなるような統合ではなく、中学校は今のまま活用することが良いと思う。

（委員）

- ・小中一貫校になれば、学習面ではよい環境になるのかと思うが、生活面では中学生が怖いとか小学生がうるさいなど心配なこともある。

（委員）

- ・義務教育学校で小学生と中学生が一緒の環境は、先ほどの意見にもあった中学生が怖いというように昇降口が一緒だと不安があるので、小中一貫教型小中学校で同じ敷地内で別々に学校があったほうが良いと思う。

（委員）

- ・8月9日に区独自で保護者と統合について意見の聞き取りをした。その中で色々な意見はあったが、統合するなら1回で3校1校統合をしてもらいたいという声が多かったので、区の意向としては保護者の意見を尊重したい。小中一貫校に関する意見については特になかった。

（委員）

- ・小中一貫校として認められるための法的な位置付けはどんな教室、施設があればよいのか教えてほしい。グラウンドは2つ以上必要なのか、校舎だけがあればよいのかなど。

⇒ (事務局)

- ・学校施設として必要なものは普通教室と理科室や音楽室などの特別教室が必要になる。特別教室については、小学校と中学校で共有して使用することもできる。グラウンドについては別々にあることが理想であるが、1つで共有することも可能である。ただし、時間割等の調整が大変であると聞いている。体育館も共有できるが2つあったほうが良いと考えている。
- ・国で定められている学校の設置基準があるが、学校の規模によって面積等が定められている中で、普通教室や特別教室、運動場などの基準を満たしていれば問題ない。プールについては近年設置しないで民間のプール等を活用する事例も多くなっているのので、絶対に必要な施設ではない。

(委員)

- ・私は8か所の保護者懇談会すべてに参加して意見を聞いてきた。その中で今回教育委員会の提案した段階的統合は難しいと感じた。また、統合するなら1回で3校1校統合でなければ町民全体の賛同が得られないと感じた。その統合の在り方が決まらなくては、小中一貫について議論することはできないと感じている。

(原会長)

- ・本日は小中一貫校について多くの方から意見を出していただいた。その中で、小中一貫校にすることによって、何を大事にして教育に取り組むかを提示してもらったほうが議論が進みやすいように感じるため、教育委員会で検討してもらいたい。

(委員)

- ・懇談会の結果について公にすることは考えているのか。

⇒ (事務局)

- ・本日の会議資料は、後日本会議の議事録要旨と合わせてホームページ上で公開する予定である。

(委員)

- ・本会議の意見でもあったが、保護者懇談会等へ統合に関する資料を事前に配布や周知する対応をもらったほうが良かったと感じがした。町民の皆さんは情報が足りないと感じるので何かしらの情報発信をしていくのが大事であるとする。また、なぜ統合をしていく必要があるのかということ町民はあまり知らないし、審議会の会議の様子がわからないと思うので、広報等を通じて町民全体に情報発信していくような検討してほしい。

5. 連絡事項

- ・次回の審議会について、通常の会議形式では発言がしづらかったり、意見が言えないまま時間が終わってしまったということがあるため、ワークショップ形式のようにグループ討議で統合の議論を深めてもらい、意見を取りまとめていきたいと考えている。

6. 閉 会